

令和5年7月2日

## レフェリーレポート

### - R5 B級審査を終えて -

福岡県ハンドボール協会

新屋 勝寛

---

#### 1. 参加大会

第43回全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会

日時：令和5年6月30日(金)～6月2日(日) (審査は1日み)

場所：キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター 他

---

#### 2. 筆記試験 (40分)

問題集から25問出題されていた。ボールのカラー・交代地域・チーム役員のことや第8条を中心に全般的に出題されていた。26問目は、「審判員の心得10箇条」から5つ答える。その中から1つを選び、自分が審判をするうえで取り組んできたことを100～150字で答えるというものだった。

※問題集をしっかり勉強しておけば問題はない。競技規則と合わせて勉強しておくことで理解も深まる。

---

#### 3. 実技試験についての説明 大熨嘉彦 様 (中国ブロックハンドボール協会 理事)

全ての審判員に共通している「人間性・技術・体力」の3つのポイントを意識すること。その中でも、審判員としての技術(事実判定)も大切だが人間性・体力の2つのことのほうがB級審査に臨むうえで大切になる。全ては**印象**という言葉で説明がつく。チーム・選手・オフィシャルとのコミュニケーション、姿勢、振る舞い、走力などを意識しておく。

これらの基盤になるのが「審判員の10箇条」である。誰が見ても、聞いてもわかる「①笛の音色②方向指示③正しいジェスチャー④その後のボディランゲージ」をすること。それに時間(時計)と得点の管理を確実にすること。

#### 4. 担当試合における気づきと反省（審査員からのアドバイス）

審査員：竹村さん・野島さん

##### ○男子1回戦 延岡クラブNEXT（宮崎） 26-15 SUNZ NEXT（広島）

前半のスコアは17-6と宮崎が10点以上のリードを奪う。試合結果は上記の通り。大きな反則もなく、どちらのチームもクリーンなDFをしている印象があった。1試合を通して、広島が退場2回、宮崎は何もなし。ベンチや選手も荒れることはなく落ち着いた試合であった。

自分はレフェリングをするうえで「明確な笛を吹くこと、ジェスチャーを正しくすること、ボールから目を切らないこと、走ること」に気を付けていたことと、事前のオフィシャルやモップなどとのコミュニケーションを取り、試合を円滑に進めていくことだった。笛の音色やジェスチャーについては、はっきりと示せていたと思う。走ることもコート縦については動いていた。ただ、CRにいる時の横の動きや位置取りがうまくできていなかった。ポイントに素早く入れないということは、プレーを近くで見れていない証拠である。OFの流れを予測しながら動いていたつもりだができていなかった。もっと全体の動きを見て、ポイントにスッと入れるよう動かないといけなかったと感じた。また、プレーヤーとの必要なコミュニケーションも取れてはいたが、口頭の注意などをもっとCR側からしていくべきだった。

<竹村さん・野島さんからのアドバイス>

##### ○良かったところ

- ・試合の入りから好印象を持てた。一生懸命、レフェリングをしていると感じることができた。
- ・走力は選手にも負けることなく走れていた。

##### ○改善していくところ

- ・前半のオーバーステップをうまく取れていない。特にDFを1対1で突破しようとしているときのステップをとること。
- ・領域分担の仕方をペアでもっと考えること。CRの時にもっと横に動くこと。反対側のフリースローを判定するとき遠い位置にいる。ポイントをもっと素早くとれるように心がける。
- ・もっといろんなカテゴリーやブロック大会を吹いて経験を積むこと。
- ・プレーとして起こる前に注意をしていく（とくにDFへの声掛けをして余計な反則をさせない）、プレーとして起こってしまったものへの対応をきちんとルールに則って行うこと。

- ・判定の精度をもっと高めていくこと。段階罰、退場、失格の判定基準が1試合を通して明確にされていなければいけない。
- ・モダンハンドボールを実践していく。プレーが継続なのか、そうではないのかの判断を素早く行うこと。

---

#### 4. 他レフェリーを観察して

熊本・岡山の女性レフェリーペアを観察して気づいたことは、コートの中をよく動いていることだった。判定後にポイントに素早く入り、その後の位置取りの切り替えを行う。観察していてかなり勉強になった。同じB級受験者とは思えないくらい動きの精度が高かったと思った。また、判定に自信がなかったり、迷って吹いてしまった判定は、笛の音色やジェスチャーにでることを改めて感じた。社会人はとくに敏感で、これらを見逃してくれない。正しくコミュニケーションをとり、レフェリングを理解してもらい、選手がプレーに集中できる試合を作っていないといけない。

---

#### 5. 今後の課題

- ・試合を吹くカテゴリーの幅を広げていく。
- ・試合数をこなしていく。(できる限り)
- ・自分がレフェリングした映像をみて、自己分析をする。

---

#### 6. 終わりに

審査に係っていただいた各ブロック審判長・各県ハンドボール協会の方々をはじめとした大会に関わられた方々に感謝します。